

# 平成 20 年度運営報告

自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 21 年 3 月 31 日

## 事業

### I 地域の国際化の推進

#### 1 市町村国際交流協会の機能拡充事業（233,210 円）【重点事業】

##### 【目標】

- 当協会及び市町村国際交流協会間のネットワークの強化に努める。
- 市町村国際交流協会未設置市町村における協会設置を働きかける。

##### 【事業実績】

##### (1) 市町村国際交流協会への訪問

日 時:平成 20 年 4 月～平成 21 年 1 月

訪問先:福島市、郡山市、田村市、喜多方市、南相馬市、白河市、川俣町、三春町、小野町、鏡石町、天栄村、古殿町、中島村、泉崎村、棚倉町、会津美里町  
(16 協会)

内 容:地域の現状と課題の把握、県協会事業の広報と協力依頼等

##### (2) 市町村国際交流協会ネットワーク会議

日 時:平成 20 年 12 月 5 日(金)10:00～16:00

会 場:当協会

参加者:6 協会 8 名(福島市、郡山市、いわき市、南相馬市、会津若松市、喜多方市)

内 容:共通課題の協議、各協会事業についての質疑応答と情報交換、県協会からの情報意見交換など

##### (3) 岩手・宮城・福島三県合同市町村国際交流協会会議

日 時:平成 20 年 7 月 9 日(水)～11 日(金)

会 場:岩手県青少年交流の家

講 師:松岡洋子(岩手大学国際交流センター)ほか

参加者:15 協会 24 名(うち県内は、南相馬市、田村市、喜多方市、いわき市、福島市、郡山市の 6 協会 8 名)

内 容:東北版多文化共生を考えるための基調講演、行政書士及び精神科医からの事例報告についてのグループディスカッション、アクションプランの作成

##### (4) 市町村国際交流協会未設置市町村への協会設置に向けた働きかけ

南会津地方振興局、南会津町等を訪問し、南会津地方での市町村国際交流協会設置に向け現状把握を行った。

## 2 県民・NGOの活動推進事業（2,797,581円）

### 【目標】

- 県内民間団体の多文化共生をテーマとした先導的かつ公益性の高い事業に助成金を交付し、その活動を支援する。
- 私費留学生への奨学金交付により、学生生活を支援するとともに県民との交流活動を支援する。
- 南米国県人会への助成金交付により、ネットワーク維持に努める。

### 【事業実績】

#### (1) うつくしま地球支援助成金の交付

福島県内に拠点を有し活動する非営利団体の3事業(申請5事業)に対し、下記のとおり助成金を交付した。また、助成事業とふくしま友好外交官の合同活動報告会を今年度初めて実施した。

	事業名	主催団体	助成金交付額(円)
1	若者のための地球支援 2008	いわき市民間国際交流・協力団体連絡会	250,000
2	外国人の住みよいまちづくり事業	会津喜多方国際交流協会	260,000
3	日越国交 35 周年記念 友好親善の タベ うつくしまベトナム in ふくしま	うつくしま・ベトナム文化交流会	150,000
		合計	660,000

#### (2) ふくしま友好外交官の任命

福島県内の大学に在籍中の外国人私費留学生6名(応募申請者8名)を「ふくしま友好外交官」に任命し、月2万円の奨学金を9ヶ月間交付した。

さらに、下記の当協会主催事業に参加するとともに、一般県民向けの交流会を自主的に企画開催するなど活発に活動した。

李 璐伟(中国・山西省 福島大学行政政策学類3年)

曲 蕾(中国・山東省 福島大学経済経営学類2年)

朱 俄鴻(中国・福建省 福島大学経済経営学類2年)

徐 学娣(中国・遼寧省 福島大学経済経営学類2年)

李 紅花(中国・黒竜江省 福島大学経済経営学類2年)

HAPUGAHAGE THILAK CHAMINDA

(スリランカ 会津大学大学院コンピュータ理工学研究科前期課程2年)

#### ○ 活動内容

- ① 当協会主催事業等への参加:土曜広場、ふくしまグローバルセミナー、ユネスコ中国教員訪問団通訳、あいづわかまつ国際交流フェスティバルなど

- ② 自主企画事業

「留学生との春節の集い」

日 時:平成 21 年 1 月 17 日(土)10:00~14:00

会 場:福島市市民会館

参加者:40 名

内 容:料理教室(餃子づくり)と交流会

### (3) 海外移住者援護事業(県補助事業)

ブラジル県人会へ 60 万円、ペルー県人会へ 14 万円及びアルゼンチン県人会へ 21 万円の補助金を交付した。

## 3 情報提供・調査研究の充実(1,051,237 円)

---

### 【目標】

- 広く県民に対して迅速な国際交流に関する情報提供に努める。
- ホームページの拡充を図る。

### 【事業実績】

#### (1) 国際交流情報紙「Gyro(ジャイロ)」の発行

- 仕 様:A4版 12 ページ 表紙カラー、中 2 色刷り 3,000 部
- 発行回数:年 4 回
- 内 容:世界で活動する福島出身者・福島で活動する外国出身者の紹介、NGOや市町村国際交流協会紹介、当協会 20 周年記念企画、当協会の主催事業案内と報告など
- 配 布 先:賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、NGOほか

#### (2) 英語版生活情報紙「ふくしま Life」の発行

- 仕 様:A4版 2 ページ 1色刷り 100 部
- 発行回数:平成 20 年 4 月~平成 21 年 3 月の間に 10 回
- 内 容:イベント情報、生活情報、名所案内など
- 配 布 先:福島市内の公共施設、外国出身者が立ち寄るお店、教会ほか

#### (3) メーリングリストの管理

国際交流に関する情報を随時メーリングリストで発信した。

- メーリングリスト登録者数:337 件(昨年度比 112%)
- メーリングリスト利用件数:126 件(昨年度比 91%) (内、当協会発信件数 109 件)

#### (4) NGOダイレクトリーの更新

県内に活動の拠点のある 121 の民間国際交流団体と 29 の市町村国際交流協会の連絡先・設立趣旨・活動内容等を更新し、本協会ホームページ上で掲載した。

#### (5) ホームページの拡充

日本語版のバナーの導入や各ページの精査を行うとともに、英語版と中国語版のホームページの内容をリニューアルした。

- ホームページ(トップページ)アクセス件数:54,365 件(昨年度比 90%)

#### 4 協働事業実施の拡充事業 (318,164 円)

---

##### 【目標】

- 関係機関と共同主催という形で協働して事業を実施し、人的、資金的に関与することで、連携を深めるとともにそのノウハウの相互移転を図る。

##### 【事業実績】

###### (1) ふくしま地球市民フェスティバル 2008

主 催:福島県、JICA二本松、当協会

日 時:平成 20 年 10 月 11 日(土)~15 日(水)10:00~17:00

会 場:ビックパレットふくしま(郡山市)屋外テント

来場者:約 9,000 名(昨年度比 257%)

出展団体:25 団体(昨年度比 63%)

協賛団体:11 団体(昨年度比 33%)

内 容:NGO活動紹介など「第 20 回全国生涯学習フェスティバル」参加事業として  
5 日間実施。

###### (2) ふくしまグローバルセミナー2008

主 催:福島県国際理解教育ネットワーク

(構成団体:福島県、福島県教育委員会、JICA二本松、当協会)

日 時:平成 20 年 12 月 13 日(土)12:30~14 日(日)12:45

会 場:JICA二本松

講 師:木下理仁(かながわ開発教育センター事務局長)ほか 30 名

参加者:高校生 53 名、大学生 34 名、教員 25 名、一般 71 名 計 183 名(講師含む)

内 容:オープニング・セッション、クロージング・セッション

分科会(国際理解、異文化理解、国際協力などに関するワークショップや講話)

###### (3) 国際化時代の人権セミナー

主 催:福島県、当協会

日 時:平成 21 年 2 月 8 日(日)13:30~15:40

会 場:郡山市民文化センター

講 師:池田香代子(ドイツ文学翻訳家、口承文芸研究家)

参加者:約 150 名

内 容:『世界がもし百人の村だったら』を題材として、国籍や民族に関係なく誰もが地域の  
住民として生き生きとした生活がおくれる地域社会の実現について講演した。

## II 多文化が共生する社会づくりの推進

### 1 日本語教室の活動推進事業（446,237円）【重点事業】

#### 【目標】

- 外国出身住民が比較的多く在住しているが日本語教室がない地域において、新たな教室の開設を促進する。
- 県内日本語教室間の連携と、日本語ボランティアの養成と資質の向上を支援する。

#### 【事業実績】

##### (1) 日本語教室開設に向けた働きかけ

外国人登録者数があり、かつ、日本語教室のない南会津地域において、設置に向けての現状把握と働きかけを行った。

なお、双葉地域では「おおくま国際交流協会にほんごきょうしつ」、田村地域では「小野町日本語教室」、伊達市域では「日本語教室親和の会」が今年度にそれぞれ開設された。

##### (2) 日本語ボランティア養成講座の実施

共 催:郡山市、郡山市国際交流協会

協 力:福島大学

会 場:郡山市労働福祉会館

参加者:のべ 191 名(実人数 89 名)

#### (初心者向け)

NO	日時・講師	講師	テーマ	参加者数
1	7月26日(土) 10:00~16:00	永島恭子 郡山市国際交流協会 日本語講師	教え方入門Ⅰ 「はじめよう！日本語 ボランティア」	39
2	8月2日(土) 10:00~16:00	中川祐治 福島大学人間発達 文化学類准教授	教え方入門Ⅱ 「日本語で日本語を教え るってどうするの？ / 身の回りのものを使って日 本語を教えてみよう」	36
3	8月9日(土) 10:00~16:00	市瀬智紀 宮城教育大学 国際理解教育研究 センター准教授	教え方入門Ⅲ 「異文化理解 / 日本人 と外国人、考え方どう違 うの？ / 異文化間コミュニケーションと日本語教室」	29

(活動経験者向け)

NO	日時・講師	講師	テーマ	参加者数
4	8月23日(土) 10:00~16:00	半沢康 福島大学人間発達 文化学類准教授	音声と方言 「知ってるようで知らない、日本語の発音と方言」	18
5	9月6日(土) 10:00~16:00	井本亮 福島大学経済経営 学類准教授	文法Ⅰ 「日本語を教えるための 日本語文法(1)」	32
6	9月13日(土) 10:00~16:00	井本亮 福島大学経済経営 学類准教授	文法Ⅱ 「日本語を教えるための 日本語文法(2)」	37

(3) 日本語教室ネットワーク会議

日時:平成20年8月7日(木)10:00~15:00

会場:当協会

参加者:18団体26名

内容:各教室から出された日本語教室の運営や教授法についての共通課題に関する意見交換や福島大学からの情報提供など。

(4) 日本語教室実態調査

県内に活動の拠点がある38の非営利の日本語教室の連絡先・活動内容等を更新し、当協会ホームページ上で掲載した。

2 ふくしま多文化共生サポーターの活動推進事業 (2,828,188円)【重点事業】

【目標】

- ふくしま多文化共生サポーターの円滑な活動を推進する。
- ふくしま多文化共生サポーターのコア的人材を育成し、自主的な活動へと導く。

【事業実績】

(1) ふくしま多文化共生サポーター活動のコーディネート

件数 32件(昨年度比160%)(○数字は当協会が経費負担)

人数 69名(昨年度比138%)

(小・中学校への派遣)

No	期間(のべ時間)	場所	内容	依頼者	サポーター数
1	平成20年4月8日~平成20年12月	本宮市立糠沢小学校	中国出身児童1名への日本語指導及び教科通訳	本宮市教育委員会	1
2	平成20年4月8日~6月26日(50時間)	二本松市立二本松第二中学校	中国出身生徒1名への日本語指導及び教科通訳	二本松市教育委員会	1

3	平成 20 年 5 月 23 日～9 月 25 日 (50 時間)	福島市立 北信中学校	フィリピン出身生徒 2 名への日本語指導及び母語による相談	福島市 国際交流協会	1
4	平成 20 年 5 月 21 日～7 月 17 日 (46 時間)	福島市立 笹谷小学校	中国出身児童 1 名への日本語指導及び教科通訳	福島市 国際交流協会	1
5	平成 20 年 5 月 19 日～9 月 24 日 (48 時間)	福島市立 福島第三中学校	中国出身生徒 1 名への日本語指導及び教科通訳	福島市 国際交流協会	1
⑥	平成 20 年 5 月 2 日～10 月 21 日 (50 時間)	会津若松市立 謹教小学校	中国出身帰国子女 1 名への日本語指導及び教科通訳	会津若松市 教育委員会	1
⑦	平成 20 年 5 月 7 日～10 月 22 日 (50 時間)	会津坂下町立 坂下小学校	中国出身児童 1 名への日本語指導及び教科通訳	会津坂下町 教育委員会	1
⑧	平成 20 年 5 月 26 日～平成 21 年 2 月 26 日 (61 時間)	石川町立 石川中学校	中国出身生徒 1 名への日本語指導及び教科通訳	石川町 教育委員会	1
9	平成 20 年 6 月 30 日～10 月 23 日 (48 時間)	福島市立 野田小学校	フィリピン出身児童 1 名への日本語指導及び母語による相談等	福島市 国際交流協会	1
10	平成 20 年 6 月 30 日～10 月 9 日 (48 時間)	福島市立 福島第一中学校	中国出身生徒 1 名への日本語指導及び母語による相談	福島市 国際交流協会	1
⑪	平成 20 年 7 月 4 日～11 月 21 日 (52 時間)	会津若松市立 若松第四中学校	韓国出身生徒 2 名への日本語指導及び母語による相談	会津若松市 教育委員会	1
12	平成 20 年 9 月～平成 21 年 2 月	福島市内 小中学校 13 校	J S L カリキュラム授業における通訳 (中国、モンゴル、フィリピン、韓国)	福島市 教育委員会	9
13	平成 20 年 10 月 2 日～12 月 18 日 (40 時間)	福島市立 信夫中学校	フィリピン出身生徒 1 名への日本語指導及び教科通訳	福島市 国際交流協会	1
14	平成 20 年 9 月 30 日～12 月 19 日 (38 時間)	福島市立 吉井田小学校	フィリピン出身生徒 1 名への日本語指導及び教科通訳	福島市 国際交流協会	1
⑮	平成 20 年 10 月 15 日～平成 21 年 1 月 29 日 (92 時間)	塙町立 笹原小学校	韓国帰国子女 2 名への日本語指導	塙町教育委員会	1
16	平成 20 年 11 月 25 日～平成 21 年 3 月 22 日 (継続中)	本宮市立 白沢中学校	中国出身生徒 1 名への日本語指導及び教科通訳	本宮市 教育委員会	1
17	平成 20 年 12 月 16 日～平成 21 年 3 月 9 日 (50 時間)	二本松市立 二本松北小学校	パキスタン出身児童 1 名への日本語指導	二本松市 教育委員会	1

## (公共的団体等の依頼に対する派遣)

No	期間(のべ時間)	場所	内容	依頼者	サポーター数
1	平成20年9月3日～10月1日	伊達市 梁川公民館	中国語講座の講師	伊達市 梁川公民館	1
2	平成20年8月23日、24日	福島市内	台湾J Cとの交流会の通訳	福島青年会議所	3
3	平成20年9月29日、30日、10月2日	郡山市内	中国人研修生への説明通訳	福島労働基準監督署	2
4	平成20年10月19日、11月19日	福島市立 福島第一小学校	ブラジル料理教室の講師	福島市立 福島第一小学校	1
5	平成20年10月19日、20日	福島市内	中国教師派遣団との交流会通訳	福島県 教育委員会	12
6	平成20年11月22日	福島市内	中国研修生・留学生との交流会通訳	JICA 帰国専門家 福島県連絡会	1
7	平成21年2月10日	郡山市内	高等学校での国際理解講座講師	星槎国際高等学校	1
8	平成20年12月3日	福島家庭裁判所相馬支部	DV被害女性保護命令申立、離婚調停の通訳	福島県 女性のための 相談センター	2
9	平成21年1月15日	福島県庁	県職員自主勉強会講師	福島県職員	1
10	平成21年2月～3月		小野町多言語パンフレット原稿翻訳(中、韓、ポ)	小野町公民館	1
11	平成21年2月27日	福島市立 渡利小学校	国際理解講座講師	福島市立 渡利小学校	1
12	平成21年2月12日	福島市内	湖北省訪問団歓迎レセプション通訳	福島県 議会事務局	1
13	平成21年3月14日、15日	福島県内	福島県男女共生センター国際シンポジウム通訳	福島県男女共生センター	1

## (当協会主催事業での活動)

No	期間(のべ時間)	場所	内容	依頼者	サポーター数
1	平成20年9月～平成21年2月	協会内	外国出身子どものための土曜広場での日本語指導		13
2	平成20年5月～平成21年1月	福島県内	国際理解出張講座講師		1



## (2) 土曜広場

共 催:福島市国際交流協会

日 時:平成 20 年 9 月～平成 21 年 2 月の隔週土曜日 14:00～16:00(10 回)

会 場:当協会

参加者:県内在住18歳以下外国出身児童生徒(のべ 159 名)

○出身国:中国(20名)、フィリピン(8名)、韓国(1名)、アメリカ(1名)

○居住地域:福島市(24名)、伊達市(3名)、川俣町(3名)

活動サポーター:のべ133名

内 容:ふくしま多文化共生サポーターによるマンツーマン形式による日本語指導や教科指導、「お楽しみ会」(2月14日)

## (3)多文化共生サポーター登録データの管理

各多文化共生サポーター登録者について、その活動や研修の記録を随時更新した。

[登録者数](平成 21 年 3 月 31 日現在)

197 名(うち外国出身者 54 名(6 か国))(昨年度人数比 131%)

[登録分野(複数登録あり)]

活動分野 居住地域	通訳・翻訳							日本語	国際理解
	英語	中国語	韓国朝鮮語	スペイン語	ポルトガル語	タガログ語	ドイツ語、フランス語、ポーランド語、タイ語、ロシア語など		
県北	20	28	5	4	2	2	3	35	28
県中	27	21	7	2	1	0	4	31	29
県南	6	3	1	0	0	0	2	15	10
会津	4	4	3	0	0	0	1	13	4
いわき	7	3	0	1	0	0	1	5	5
相双	5	2	0	0	0	0	0	5	7

## (4)ふくしま多文化共生サポーターエンパワーメント事業

ふくしま多文化共生サポーター登録者の中から、実際に活動しており将来コア的人材となりうるサポーター16名を選定し、下記のとおり当協会主催事業の企画運営に関わった。

### ①スタディツアー

実施日:平成 20 年 6 月 28 日(土)

視察先:かながわアースプラザ外国人教育相談センター(ユッカの会代表との話し合い)

港北国際交流ラウンジ「ニューカマー子どもの教室」(いずれも横浜市内)

②サポータースキルアップ研修会

[福島会場]

共 催:福島市国際交流協会

日 時:平成 20 年 8 月 30 日(土)10:00～16:00

場 所:福島市市民会館

参加者:ふくしま多文化共生サポーター登録者 37 名

内 容:基調講演「異文化から学ぶこと～精神科の臨床現場から～」

講師:五十嵐義雄(ヒッポメンタルクリニック医院長)

スタディツアー報告、話題提供、グループディスカッションなど

[郡山会場]

共 催:郡山市国際交流協会

日 時:平成 20 年 8 月 31 日(日)10:00～16:00

場 所:郡山市労働福祉会館

参加者:ふくしま多文化共生サポーター登録者 41 名

内 容:福島会場と同様

③サポーターステップアップ研修会「ふくしま多文化共生セミナー」

共 催:福島市国際交流協会

日 時:平成 21 年 2 月 28 日(土)13:30～15:30

会 場:福島市子どもの夢を育む施設「こむこむ」学習室

参加者:40 名

内 容:外国にルーツを持つ子供たちからの発表

講話「外国から来たお友だちとなかよく勉強するために」

講師:那波百合子(秋田県こどもの日本語ネットワーク代表)

土曜広場活動紹介

④サポーター出演による多言語ラジオ放送

日 時:平成 20 年 7 月～平成 21 年 3 月の隔週水曜日 12:15～12:28

放送局:ふくしまFM

内 容:英語、中国語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語を母語とするサポーターが、多文化共生を推進するための話題を放送した。

⑤土曜広場

上述の当協会主催の土曜広場の企画運営に参画した。

### 3 外国出身県民の社会参画の促進事業（162,780 円）

---

【目標】

- 外国出身県民の生活一般に関わる相談体制の充実を図る。
- 外国出身者の社会参画を図る。
- 外国出身者の災害時における自助努力を推進する。

## 【事業実績】

### (1) 巡回相談会

[特別枠受け入れ県立高等学校会場]

日 時:平成 20 年 6 月 17 日(火)、24 日(火)、26 日(木)、7 月 1 日(火)、2 日(水)

会 場:福島北高校、あさか開成高校、光南高校、会津学鳳高校

相談者:14 名

内 容:進路、在留資格ほか

[郡山市会場]

日 時:平成 21 年 3 月 12 日(木)13:00~16:00

会 場:郡山市国際交流サロン

相談者:3 組 14 名

内 容:定額給付金申請等行政サービス、助成金制度ほか

### (2) 外国出身住民対応講座

日 時:平成 21 年 1 月 30 日(金)10:30~12:00

会 場:郡山市役所

講 師:当協会多言語コーディネーター 何 敏

参加者:郡山市職員 80 名

内 容:外国出身者が生活しやすい環境づくり、多言語相談窓口の紹介、  
トリオフォン活用実演など

### (3) 災害時対応関係機関との連携に向けた働きかけ

平成 20 年 12 月に県災害対策課と次年度に実施する事業に対する協力依頼と、今後の連携の可能性について話し合いを持った。

## 4 多言語行政サービス提供事業(県受託事業) (4,785,912 円)

---

### 【目標】

- 外国出身県民に対する行政サービスの充実を図る。
- ふくしま多文化共生サポーターを養成し、その登録者の新規開拓を図る。

### 【事業実績】

#### (1) 市町村国際化施策担当者会議

日 時:平成 20 年 7 月 17 日(木)13:30~15:50

会 場:当協会

参加者:県内市町村外国人登録担当者及び国際交流担当者 22 市町村 24 名

内 容:県内の外国人登録の現状と国際課の事業内容、多言語行政サービス事業の紹介、  
地域における外国出身県民への対応事例についての意見交換など

## (2) 相談業務

中国語と英語は随時、韓国語、タガログ語、ポルトガル語については、毎週水曜日 13:00～17:00 に、通訳員をそれぞれの言語に1名配置し、相談に応じた。

[相談件数]

637 件(昨年度比 86%)

うちトリオフォン利用件数 25 件(昨年度比 31%)

[主な相談内容]

生活全般(127)、家族(96)、医療(92)、教育(62)、通訳翻訳(62)、在留資格(61)など

[主な相談者出身国]

中国(343)、日本(140)、フィリピン(44)、アメリカ(47)、カナダ(11)、韓国(10)、ブラジル(10)など

## (3) ふくしま多文化共生サポーター養成講座

[白河会場](共催:白河市国際交流協会)

日 時:平成 20 年 11 月 22 日(土)10:00～16:00

会 場:白河地域職業訓練センター

参加者:12 名

講師及び内容(以下全会場同様):

「異文化理解を模擬体験～多文化共生の視点から～」

(白 河:菊地恵美子 国際交流の会かるみあ

他会場:布田節子 ふくしま青年海外協力隊の会)、

多文化共生サポーター体験談(飛田立史他)

通訳の基本的な心構えとテクニック(菅野エリ V.V. スペイン語講師)

[郡山会場](共催:郡山市国際交流協会)

日 時:平成 20 年 11 月 23 日(日)10:00～16:00

会 場:郡山市労働福祉会館

参加者:21 名

[いわき会場](共催:いわき市国際交流協会)

日 時:平成 20 年 12 月 6 日(土)10:00～16:00

会 場:いわき市生涯学習センター

参加者:12 名

[福島会場](共催:福島市国際交流協会)

日 時:平成 20 年 12 月 7 日(日)10:00～16:00

会 場:福島市市民会館

参加者:28 名

## (4) 外国籍県民アンケートの実施

外国出身県民の意見を県の行政施策に反映させるため、平成 20 年 8 月に外国籍県民アンケートを実施した。

### Ⅲ 未来に持続可能な社会づくりの推進

#### 1 ESD普及事業（176,974円）【重点事業】

##### 【目標】

- ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方を普及することで、国際理解に関わる人材の拡充を図る。

##### ※ESD

ESDとは、持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)の頭文字を取ったもの。

私たちが直面している様々な社会的課題を解決し、今世界を生きる人々から将来の世代までが安心して暮すことのできる社会、即ち「持続可能な社会」を実現していくために必要な力を育むための教育。ESDは、これまでの環境教育、開発教育、多文化共生教育、福祉教育、人権教育、平和教育などのすべての教育の要素を併せ持ち、これらすべての教育をつないでいく教育。

##### 【事業実績】

下記のとおり ESD の視点を入れた国際理解出張講座を実施した。

実施回数 25回(昨年度比 96% 講座 A(0)、B(2)、C(6)、D(3)、E(14) )

参加者数 1,623名(昨年度比 178%)

##### ○プログラムと講師

	プログラム名	講師
A	変わる世界、アジアの中で日本が進むべき道	五十嵐直樹(当協会)
B	日本よ！経済大国から文化大国に転換を	五十嵐直樹(当協会)
C	世界がもし100人の村だったら	布田節子(ふくしま青年海外協力隊の会)
D	近未来予想図！10年後の世界、地域、自分	幕田順子(当協会)
E	違いは豊かさ～カナダからみた異文化コミュニケーション	マクマイケル・ビリイ(当協会)

回	日時	会場	対象	講座名
1	平成20年6月6日	浪江町立東中学校	同校生徒80名	C
2	平成20年6月21日	福島市信陵学習センター	市内小学校5・6年生30名	E
3	平成20年6月26日	浪江町立幾世橋小学校	同校6年生19名	E
4	平成20年6月26日	浪江町立請戸小学校	同校5・6年生37名	E
5	平成20年7月1日	浪江町立津島小学校	同校5・6年生21名	D
6	平成20年7月1日	浪江町立津島中学校	同校生徒43名	D
7	平成20年7月19日	鏡石町立図書館	町内中学生～一般町民34名	E

8	平成 20 年 7 月 25 日	福島市三河台学習センター	一般市民 30 名	E
9	平成 20 年 8 月 19 日	福島県立福島南高校	県内6高の生徒 50 名	E
10	平成 20 年 10 月 18 日	福島市杉妻学習センター	小学生と保護者 30 名	C
11	平成 20 年 11 月 7 日	福島市中央学習センター	一般市民 80 名	E
12	平成 20 年 11 月 12 日	伊達市立松陽中学校	同校 3 年生 88 名	E
13	平成 20 年 11 月 14 日	浪江町立大堀小学校	同校 6 年生 30 名	C
14	平成 20 年 11 月 14 日	浪江町立苧野小学校	同校 6 年生 29 名	C
15	平成 20 年 11 月 21 日	福島市杉妻学習センター	一般市民 20 名	B
16	平成 20 年 12 月 11 日	浪江町立浪江小学校	同校 6 年生 100 名	C
17	平成 20 年 12 月 12 日	福島市立杉妻小学校	同校教員 20 名	E
18	平成 21 年 1 月 15 日	福島市立庭坂小学校	同校 5 年生 45 名	C
19	平成 21 年 1 月 28 日	福島市信夫学習センター	一般市民 120 名	E
20	平成 21 年 2 月 20 日	磐梯熱海 清陵山倶楽部	田村市国際交流協会 会員 20 名	B
21	平成 21 年 3 月 4 日	会津美里町公民館	一般町民 30 名	D
22	平成 21 年 3 月 12 日	福島県立福島南高校	同校 1・2 年生 520 名	E
23	平成 21 年 3 月 12 日	福島市清水学習センター	一般市民 40 名	E
24	平成 21 年 3 月 18 日	福島県立猪苗代高校	同校 1 年生 80 名	E
25	平成 21 年 3 月 21 日	本宮市役所	一般市民 30 名	E

## 2 国際理解教育の推進事業 (2,671,069 円)

### 【目標】

- 広く県民の国際理解の推進を図る。
- 国際理解教育学習の担い手の継続的な育成と国際理解学習プログラムの普及を図る。

### 【事業実績】

#### (1) 当協会20周年記念講演会

平成 20 年 11 月 16 日(日)に当協会 20 周年記念式典、同記念祝賀会と合わせて開催した。

日 時:平成 20 年 11 月 16 日(日)14:00～15:30

会 場:福島ビューホテル「安達太良」

講 師:関口知宏氏(俳優・タレント)

参加者数:一般参加者を含め 500 名

#### (2) 教員・NGO 協働学習プログラム作成メンバーのフォローアップ

当協会では広報を行うなどして、県内の学習センターや学校等で 17 回の出張講座による実践を行った。

また、岩手県が作成した「国際理解ハンドブック」作成メンバーと当協会の教案作成メンバーが一同に会し、下記のとおり研修と意見・情報交換を行った。

日 時:平成 20 年 11 月 24 日(日)9:00～16:00

会 場:当協会内

講 師:後藤 真氏(ジン・リキ ファシリテーション代表 心理療法士)

参加者数:岩手県側 7 名、福島県側 8 名

## E その他

### 1. 韓国からのインターンシップ受け入れ事業

NPO 法人ふくかねっとより、大学生インターンシップを受け入れた。

期 間:平成 20 年 4 月～7 月、8 月～11 月

学 生:韓国白石文化大学2年生 2名

### 2. 関係機関への講師派遣

関係機関団体の各種事業に当協会職員を講師として派遣協力した。

月 日	主催者	事業名	職員名
平成 20 年 5 月 8 日	福島県立富岡高校	国際理解授業	幕田順子
平成 20 年 5 月 14 日	福島県立あさか開成高校	総合的な学習の時間 (国際交流)	新妻政弘
平成 20 年 5 月 28 日	ジェトロ福島	米国市場研究会	マクマイケル・ ビリイ
平成 20 年 9 月 9 日	福島県立福島東高校	総合的な学習の時間 (職業人に聞く)	新妻政弘
平成 20 年 9 月 26 日	会津坂下町国際交流協会	協会活性化委員会	新妻政弘
平成 20 年 12 月 2 日	福島県立会津学鳳高校	英語科・国際科等教員 国際理解教育研修会	マクマイケル・ ビリイ
平成 20 年 12 月 10 日	宮城教育大学国際理解 教育研究センター	宮城国際理解教育推進 連絡会議	幕田順子
平成 21 年 1 月 9 日	福島県総合計画課	「ふくしまの未来を考える」 シンポジウム	何 敏
平成 21 年 1 月 29 日	宮城県国際政策課	多文化共生推進に係る 相談窓口対応研修会	何 敏
平成 21 年 2 月 17 日	田村市国際交流協会	日本語教室開催検討会	幕田順子
平成 21 年 2 月 20 日	福島市立福島第二中学校	職業人の講話	幕田順子
平成 21 年 3 月 10 日	福島市立福島第一小学校	国際社会の中の日本 ～青年海外協力隊経験を もとに～	幕田順子

## I 財源

### 1 自己財源

#### 【計画】

- (1)基本財産は、平成 19 年度実績を上回る運用益を目指す。
- (2)賛助会費は 200 万円の達成を、うつくしま地球支援募金は現状維持を、それぞれ目指す。
- (3)負担金等は、講座等で受益者負担を原則とし相応の負担を参加者に求める。

#### 【実績】

- (1) 基本財産運用益は 1,733 万円となり、昨年度に比べ 385 万円の増となった。
- (2) 賛助会費は昨年度 151 万円より 8 万円減の 143 万円、「うつくしま地球支援募金」は昨年度の 120 万円より 8 万円減の 112 万円となった。
- (3) 負担金は、協会 20 周年記念事業参加費等の増により、昨年度より 23 万円増の 67 万円となった。

その結果、総収入に占める自己財源の割合は、基本財産運用益の増により、昨年度の 38%から 41%へと増加した。

### 2 補助金・助成金・受託金等

#### 【計画】

- 県国際課や(財)自治体国際化協会だけでなく、その他の県関係部署や関係機関、助成団体からの資金獲得を目指す。

#### 【実績】

他の団体等からの資金獲得はできなかったが、(財)自治体国際化協会から 146 万円の助成を受け、「ふくしま多文化共生サポーターエンパワーメント事業」を実施した。

### 3 経費削減

#### 【計画】

- 事務経費のうち、通信運搬費とコピー代の前年度決算額の 5%減をめざす。

#### 【実績】

昨年度決算額と比較して、通信運搬費では 3%の減、コピー代では 31%の減を達成した。また、管理費では人件費の減等により昨年度と比較して 6.6%の減額となった。



## II 組織体制

### 1 事務体制

---

#### 【計画】

- JICAからの国際協力推進員の配置及び県教育委員会からの教員研修生の受入れを行う。
- 公益財団法人への移行に向け組織体制の整備に努める。
- 職員の適材適所の配置と人的資源の向上等を図る。

#### 【実績】

- (1) JICA から常勤の国際協力推進員を配置されたが、福島県教育委員会からの研修生の派遣はなかった。
- (2) 各種セミナーに参加し、公益認定申請に係る情報収集に努めた。
- (3) 各担当者が自治体国際化協会や全国市町村国際文化研修所、全国の大学等が開催した担当業務に関するセミナー等へ参加した。  
また、ふくしま自治研修センターで実施している職員研修に3回参加した。

### 2 役員体制

---

#### 【計画】

- 新体制となった理事会の円滑な運営を図る。

#### 【実績】

平成20年度に新体制となった理事会には、2回の開催を通算しておよそ7割の本人出席がなされ、議案内容や協会事業等に対して積極的な質疑や意見交換がなされた。

## 目標指数

### 1. 事業の目標指数

第3期基本運営計画における重点事業の数値目標の達成状況は下記のとおり。

項目	平成 18 年度 (実数)	平成 19 年度 (実数)	平成 20 年度 (実数)	平成 22 年度
市町村国際交流協会の設立率(設立数/市町村数)	52%※1 (31 協会)	52% (31 協会)	49%※2 (29 協会)	70%
日本語教室の市町村開設率(設立市町村数/外国人登録のある市町村数)	39% (23 市町村)	39% (23 市町村)	41%※3 (24 市町村)	70%
多文化共生サポーター登録数率(登録者数/外国人登録者数)	0.83% (104 名)	1.17% (150 名)	1.53%※4 (197 名)	1.5%
多文化共生サポーター活動率(活動延べ人数/登録者数)	19% (20 名)	33% (50 名)	35%※5 (69 名)	50%
ESD 普及事業参加者数(累計)	—	13 名※6	1,623 名※7	250 名

※1 31 市町村国際交流協会 / 60 市町村

※2 29 市町村国際交流協会 / 59 市町村

(平成 20 年度中に福島市の合併による飯野町協会の統合と、湯川村協会の解散があった。)

※3 24 市町村 / 59 市町村

※4 197 名 / 12,844 名

※5 69 名 / 197 名

※6 グlobalセミナー分科会参加者数

※7 ESD 普及講座参加者数

### 2. 経営の目標指数

項目	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 22 年度
賛助会費収入	155 万円	151 万円	144 万円	260 万円
総収入における自己財源率(県補助金・委託料以外の収入/総収入)	37%	38%	41%	40%
常勤担当職員数	7 名	7 名	7 名	7 名